

きらりと光るアイランド みしま

三島村まち・ひと・しごと創生総合戦略



竹島



硫黄島



黒島

平成 27 年 10 月 23 日

鹿児島県三島村

目 次

1 総合戦略策定の考え方.....	1
(1) 背景と目的.....	1
(2) 人口ビジョンにおける将来展望.....	5
(3) 三島村のこれまでの取組と戦略策定の考え方.....	8
2 基本方針.....	10
3 基本目標と主要施策.....	11
(1) 基本目標①個性ある3つの島への新たな人の流れをつくる.....	11
(2) 基本目標②地域資源を生かしたしごとをつくり、安定した雇用を創出する.....	14
(3) 基本目標③若い世代の移住・結婚・出産・子育ての希望をかなえる.....	17
(4) 基本目標④健康で豊に安らげる特色ある地域をつくり、地域と地域を連携する.....	19
4 計画の推進に向けて.....	22
5 まち・ひと・しごと 創生戦略推進会議委員名簿.....	23

1 総合戦略策定の考え方

(1) 背景と目的

三島村は、薩摩半島南端の長崎鼻から南南西約 40km に位置する、竹島・硫黄島・黒島の3島からなる集合村で、2010 年の国勢調査の人口は 418 人です。これは、全国の 1728 市町村の中で、1723 位、鹿児島県では 43 位にあり、最も小さな自治体です。

2015 年 5 月現在の推計人口は 372 人と減少傾向が続いており、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という。）の地域別将来推計人口では、今後についても漸減傾向が続き、2040 年には 296 人まで落ち込むと推計され、人口減少は村政において最重要課題となっています。

国でも、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）に基づき 2014 年 12 月には、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が示され、人口の減少に歯止めをかけること及び東京圏への人口の過度の集中を是正することが明確に示され、地方自治体にもそれぞれの特徴を生かし地方創生に向けた取り組みを求めています。

こうしたことを踏まえ、三島村人口ビジョン（以下、人口ビジョンという。）では、人口の現状分析や将来人口の推計を行い、人口減少に対する村民の認識を共有しながら、村が存続し、発展していくための人口の将来展望として、2020 年までに 400 人、さらに 2050 年に 500 人規模まで回復することを目標としています。

この総合戦略（以下、総合戦略という。）では、人口減少問題の克服と村の成長力を持続的に確保し、“小さくてもきらりと光る村づくり”（きらりと光るアイランド みしま）の実現に向けて、当面は 2020 年までの基本目標を掲げ、主な重要業績評価指標（KPI）を設定し、戦略的な施策をとりまとめているものです。

総合戦略は、村民をはじめとして産官学金労言等の多様なプレーヤーとの連携のもとで立案・実践し、評価・改善・見直し（PDCAサイクル）を進めることとし、「政策の 5 原則」（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）の趣旨を踏まえて、積極的に展開してまいります。

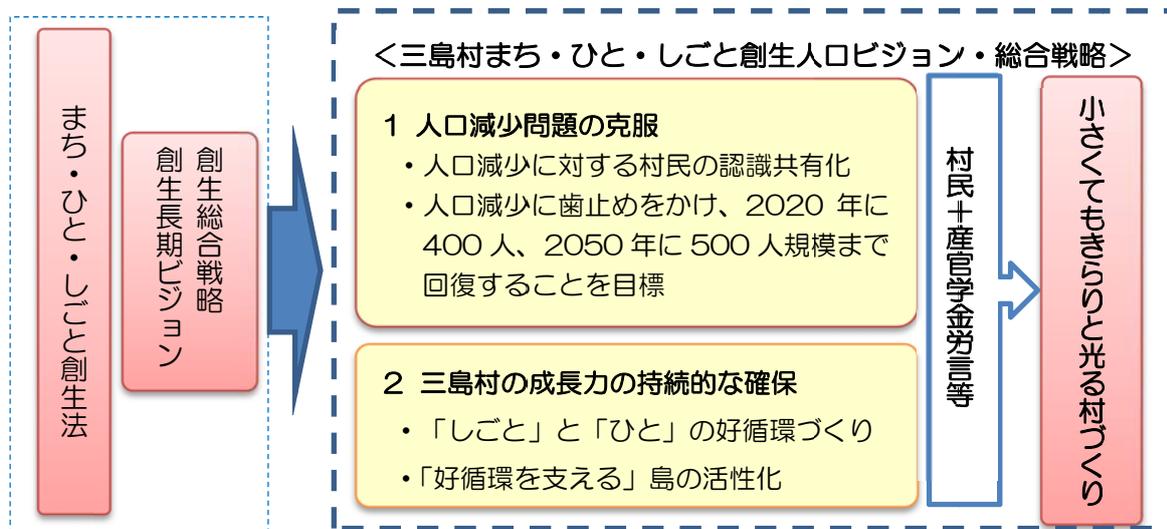
【三島村の位置・各島の概要】



- 三島村は、竹島、硫黄島、黒島の三つの島から成り、東南に種子島、屋久島が横たわり、南にトカラ列島、西に草垣群島を望む位置にあります。
- 他にない特殊な自然環境と歴史・文化的資源の保存と活用が評価され、2015年9月に日本ジオパークに認定されました。
- フェリーみしまが週3便運航し、2015年10月からは月1回の限定ですが、枕崎港まで定期運航します。空路は、2015年4月より鹿児島空港と硫黄島の区間をセスナ機が週2往復しています。
- 役場は鹿児島市に置いています。

島名	特徴
竹島	<ul style="list-style-type: none"> • 周囲 9.7km、面積 4.2km²で、最も高い山でも 220m という平坦な島で、竹島という名のごとく島全体が竹に覆われた畜産の盛んな島である。 • 豊富な竹林から取れる竹の子の王様「大名竹の子」は、村の特産品に加工され、その味の良さから来村者のお土産に喜ばれている。
硫黄島	<ul style="list-style-type: none"> • 3つの島の間に位置し、周囲 14.5km、面積 11.7km²、椿、つつじ、車輪梅の原生林や、野生化した孔雀が街中を闊歩するのどかな風景が見られる島である。 • 明治以来、地元唯一の経済の支えであった硫黄鉱山が、硫黄の需要減から昭和 39 年に閉山し、また昭和 55 年から採掘が始められたオパール・シリカ（セラミック・ガラスの原料）も最盛期には年間 5 万トン、約 3 億円の生産額をあげていたが、現在は閉山している。近年は地熱発電から液体水素製造に向けた調査研究がおこなわれている。 • 西アフリカの伝統的な打楽器ジャンベを通じた国際交流が展開されている。 • 故中村勘三郎一門による野外歌舞伎「俊寛」、及び梅若玄祥師による三島村新能「俊寛」を演目に縁の地で上演され、話題となった。
黒島	<ul style="list-style-type: none"> • 周囲 15.2 km、面積 15.3km²、標高 622m の櫓岳を最高峰に、500m 級の山々がそびえ、断崖絶壁の海岸線には、無数の滝が見られる森林と大名竹に覆われた自然豊かな畜産の盛んな島である。 • 東西に大里と片泊の二つの集落があり、村の人口の約半数が居住する。 • 昔から雑木林の宝庫で木炭の産地として栄えたこともあった。また、豊富な椎の木を使った文字どおり「椎茸」の栽培が行なわれていた。最近では遊歩道が整備され、手付かずの自然を楽しむトレッキングツアーやトレイルランが好評を得ている。 • 昭和 34 年、作家有吉佐和子さんが朝日新聞に連載した小説「私は忘れない」の舞台で、昭和 35 年に映画化された地である。また、戦時中の特攻秘話等がある。

【総合戦略策定の背景と目的（展開図）】



■ 国の総合戦略を勘案した計画策定

- 「人口ビジョン」を踏まえるとともに、数値目標の設定
- 国の基本目標
- ◇ 「しごと」と「ひと」の好循環づくり
 - 「地方における安定した雇用を創出する」
 - 「地方への新しいひとの流れをつくる」
 - 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- ◇ 好循環を支える、まちの活性化
 - 「時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」
- 国の基本的方向 ～ 基本目標の達成に向けて政策を推進する

■ 数値目標・重要業績評価指標

- ◇ 基本目標における数値目標
 - ・政策分野ごとに5年後の基本目標を設定
- ※行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされる便益（アウトカム）に関する数値目標を設定
- ◇ 各施策における重要業績評価指標（KPI）
 - ・原則として当該施策のアウトカムに関する指標を設定

■ まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則**（1）自立性**

各施策が一過性にとどまらず、構造的な問題に対処し、地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるようにする。

（2）将来性

地方が自立的かつ主体的に、前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。

（3）地域性

各地域の実態に合った施策を支援することとし、各地域は客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備する。

（4）直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、ひとの移転・しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。地方公共団体に限らず、産官学金労言の連携を促すことにより、政策の効果をより高める工夫を行う。

（5）結果重視

明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

(2) 人口ビジョンにおける将来展望

将来の人口は、人口の現状と課題からみた基本的な視点を踏まえつつ、社人研推計準拠を基準指標として展望しています。

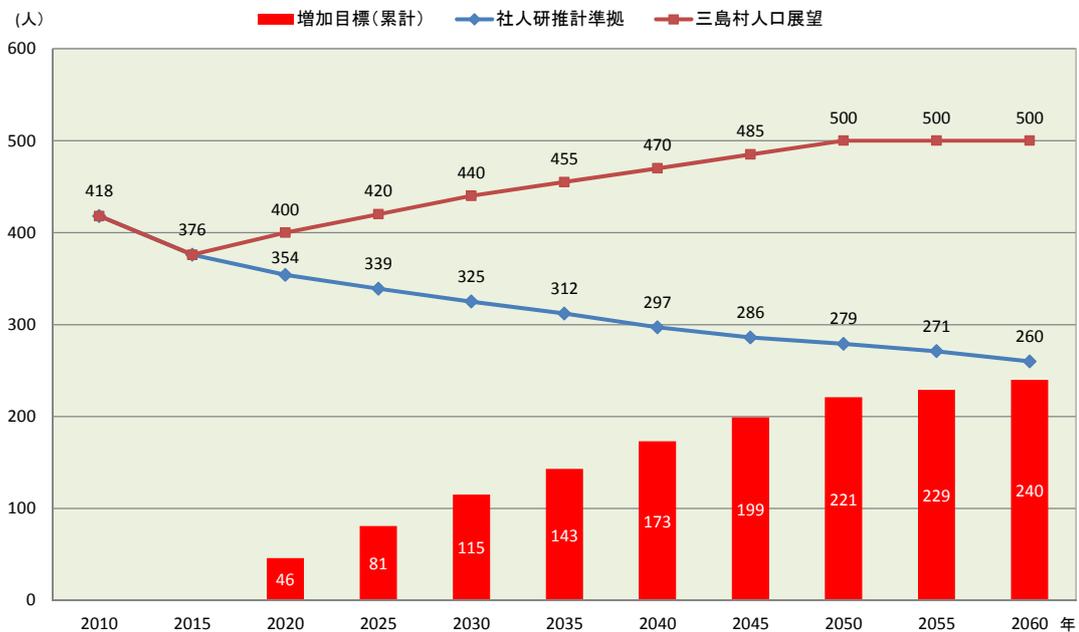
■ 人口の現状と課題からみた基本的な視点

- ①各島に人が住み続け、地域社会の基盤を維持・活性化できるような人口規模の拡大
- ②産業振興と雇用創出による社会増への取組推進
- ③若い世代の定住と子育て環境の改善による出生数の増加
- ④しおかぜ留学生制度による児童・生徒の計画的な受け入れ
- ⑤女性や高齢者の視点を重視した島づくり
- ⑥村民が長く住み続けたいくなるような満足度の向上
- ⑦人口の将来展望に対応する住宅政策の拡充

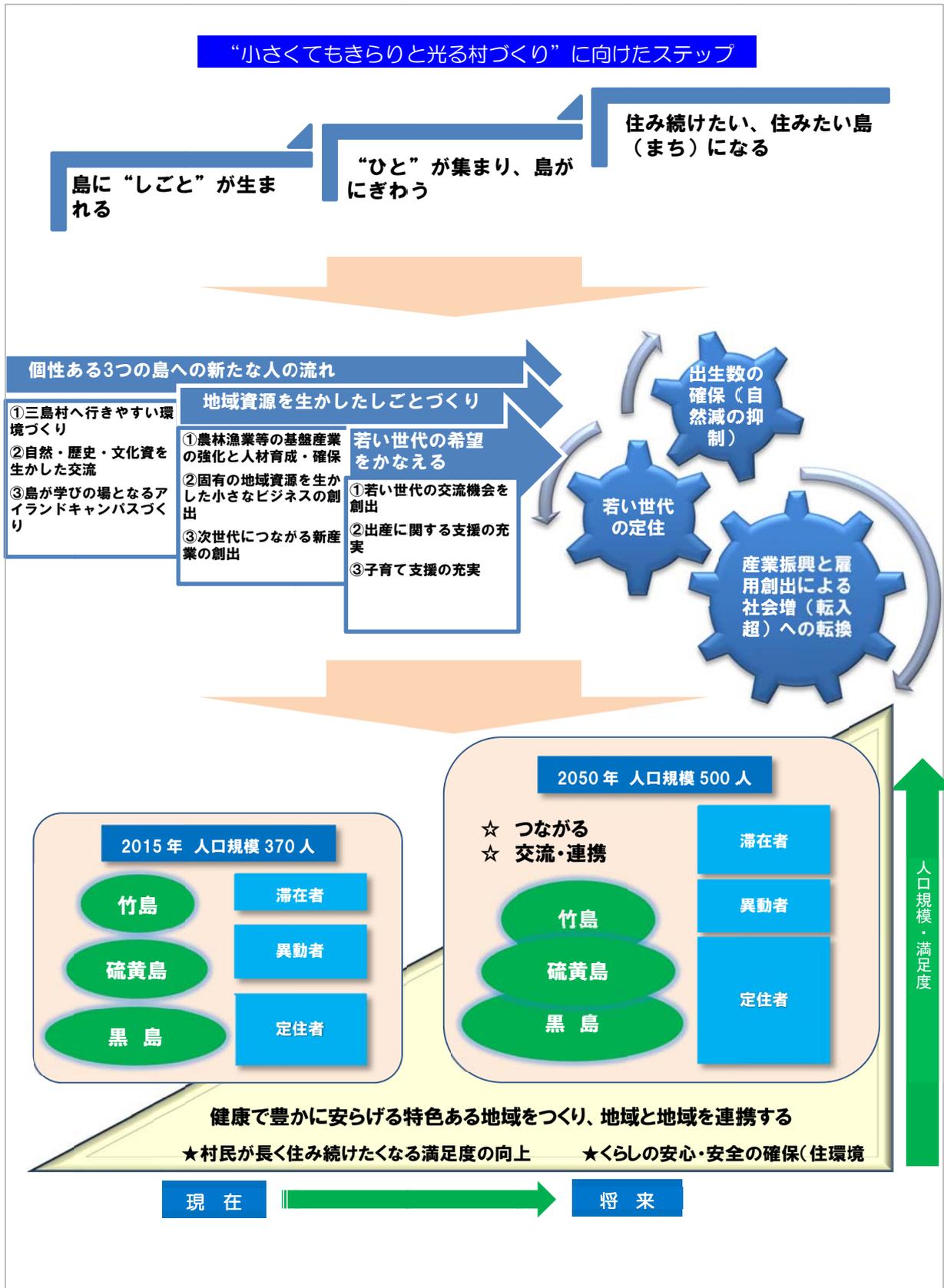
■ 人口の将来展望

三島村が目指すべき人口規模を2020年に400人、2030年に440人、2040年に470人、2050年に500人と展望し、人口減少に歯止めをかけ、各島の地域社会の基盤を維持できるような人口規模の拡大を目指します。

三島村人口の将来展望



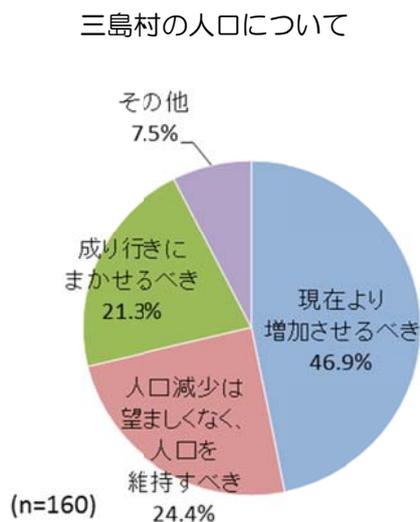
人口増加の展開イメージ図



【村民アンケートより（2015年7月実施、以下同じ）】

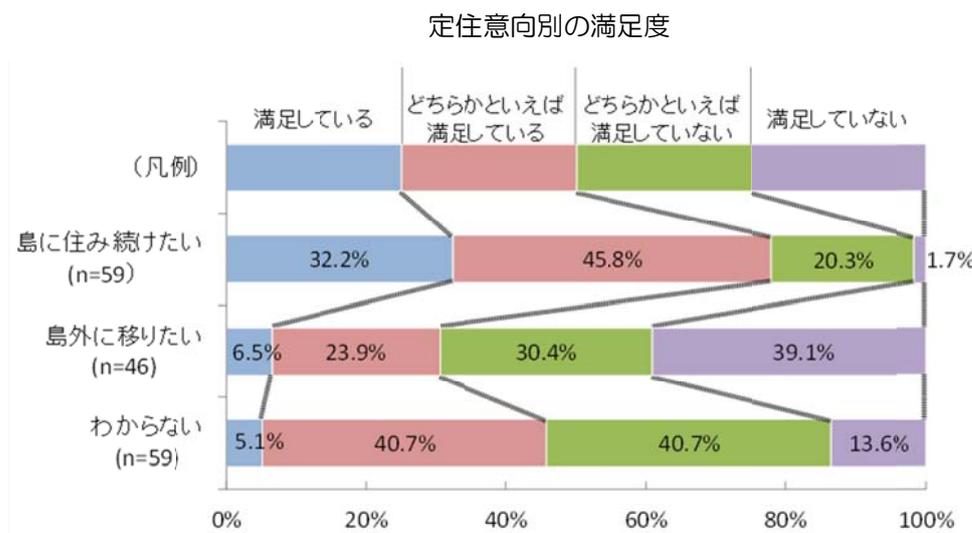
■人口減少に関する認識

三島村の人口について、「現在より増加させるべき」が46.9%と最も多く、次いで「人口減少は望ましくなく、人口を維持すべき」が24.4%、「成り行きにまかせるべき」が21.3%。



■定住意向と満足度

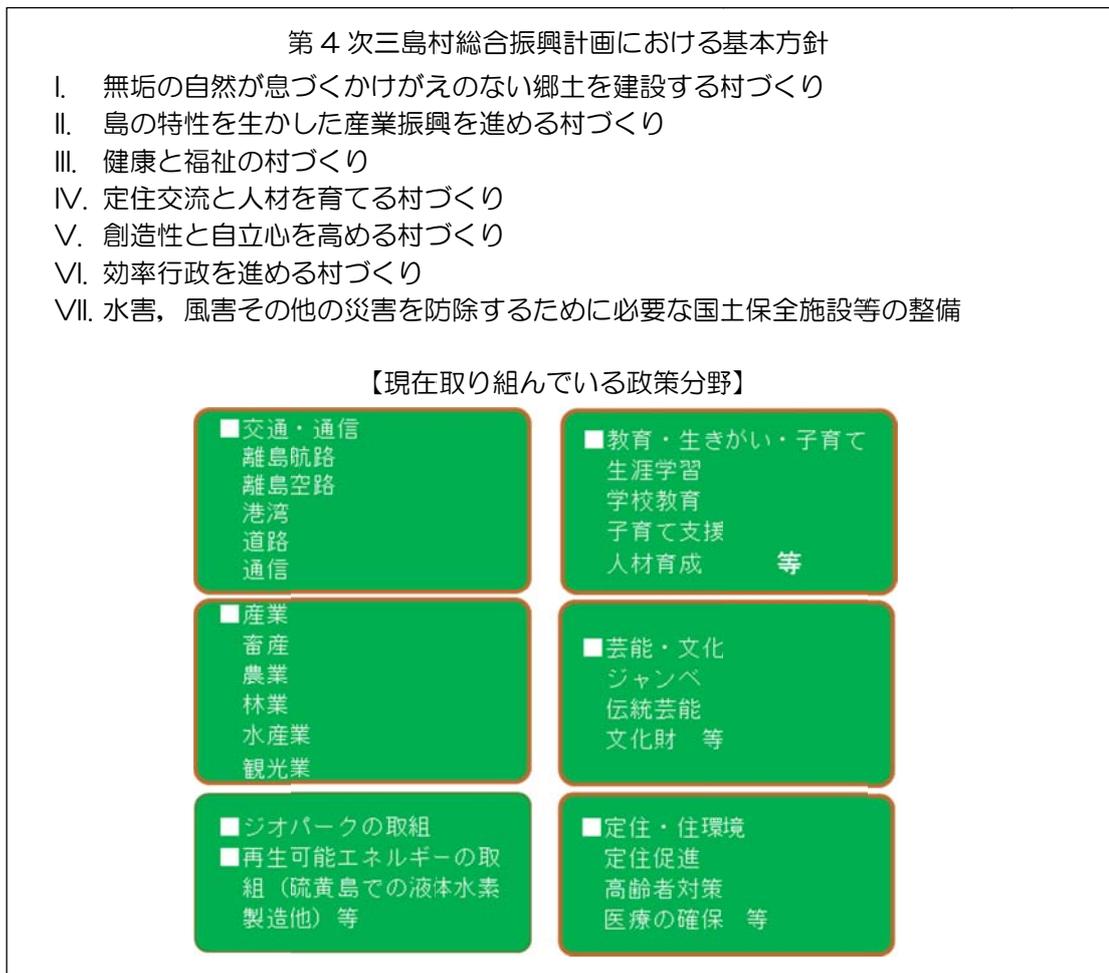
定住意向についてみると、「島に住み続けたい」が35.3%、「島外に移りたい」が27.5%、「わからない」が37.1%となりました。定住意向と満足度の関係を見ると、「島に住み続けたい」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた78%が満足としていますが、「島外に移りたい」ではその割合は30.4%になっています。



(3) 三島村のこれまでの取組と総合戦略策定の考え方

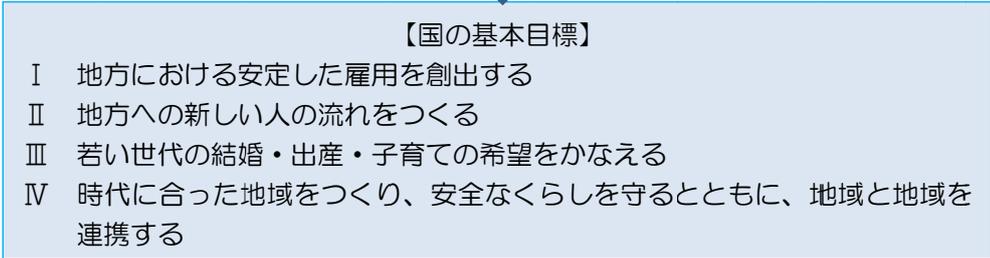
三島村では、2010年度（平成22）から2019年度（平成31）までの10年間を計画期間とする第4次三島村総合振興計画において、「多様化する住民の要望に応えつつ、小離島といえども、三島村のみが持つ優位性と特性を更に探究し、その潜在能力を掘おこして、健康で豊に安らげる三島村に創生する道を開き、発展させる」との方針をかかげ、各種施策を展開しています。そうした活動のなかから、ICT推進のベースとなる高度情報通信ネットワークの構築や三島村ジオパーク認定、地熱発電を活用した液体水素燃料の製造の可能性調査等、三島村のみが持つ優位性と特性を生かせる分野も生まれています。

総合戦略の策定では、国の地方創生の考え方を勘案しつつ、基本目標をかかげ、村民の各分野の取組に対する満足度及び重要度を参考にしつつ、具体的に施策を展開します。



↑ ↓

※好循環を支える、まちの活性化
※「しごと」と「ひと」の好循環づくり

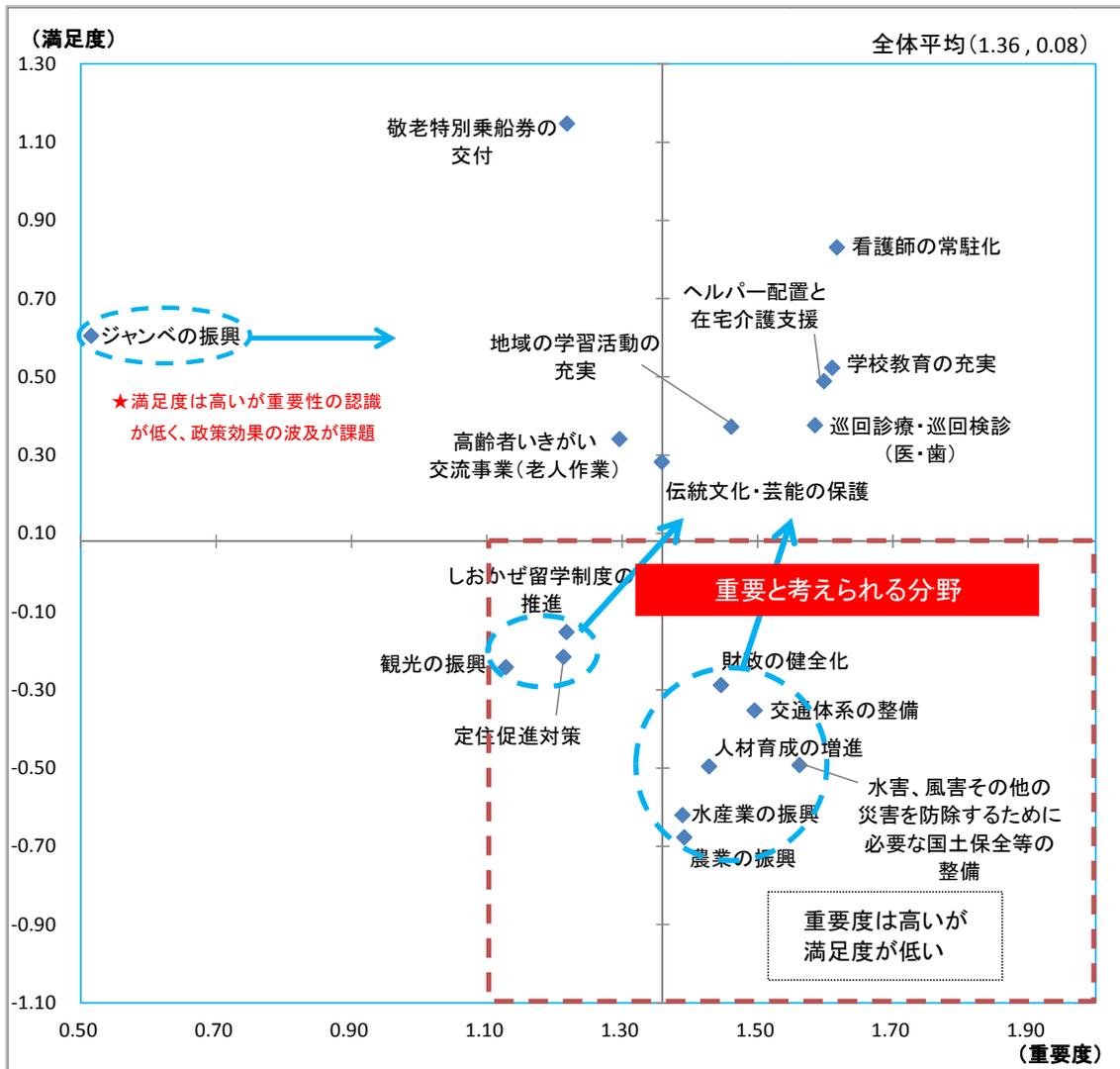


【村民アンケートより】

下図は、三島村で取り組んでいる6分野、18項目の施策に関する満足度と重要度の回答結果を点数化し、それを加重平均した数値をプロットしたものです。縦軸が満足度の評価を表し、数値が高いほど満足度は高いとみられます。横軸は重要度の評価を表し、数値が高いほど重要度は高いとみられますが、いずれも相対的な評価となります。

平均値（重要度 1.36、満足度 0.08）を基準値とし、「重要度は高いが満足度が低い」とされるエリアの施策が重要課題と考えられます。

現在の施策に対する満足度と重要度（マトリクス分析図表）



2 基本方針

国の基本目標の考え方や地域性を勘案し、以下の4つの基本目標を設定し、“小さくてもきらりと光る島づくり”に取り組み、「きらりと光るアイランド みしま」の創生を目指します。当面の目標として、平成27年度（2015年）から平成31年度（2019年）までの5年間で短期目標として設定し、施策を展開します。

目指す姿と4つの基本目標

「きらりと光るアイランド みしま」の創生

小さくてもきらりと光る村づくりを目指して

基本目標① 個性ある3つの島への新たな人の流れをつくる

- 三島村へ行きやすい環境づくり
- きらりと光る自然・歴史・文化資源を生かした交流促進
- 島が学びの場となるアイランドキャンパスづくり

基本目標② 地域資源を生かしたしごとをつくり、安定した雇用を創出する

- 農林漁業等の基盤産業の強化と人材育成・確保
- 固有の地域資源(自然資源)を生かした小さなビジネスの創出
- 次世代につながる新産業の創出

基本目標③ 若い世代の移住・結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 若者の交流機会を創出
- 出産に関する支援の充実
- 子育て支援の充実

基本目標④ 健康で豊に安らげる特色ある地域をつくり、地域と地域を連携する

- 集落機能の維持と安心・安全な暮らしの実現
- 村民一人一人とつながり、豊かさを享受できる環境づくり
- 3つの島の連携と鹿児島市、南薩地域との連携

3 基本目標と主要施策

(1) 基本目標①

個性ある3つの島への新たな人の流れをつくる

【数値目標】

指 標	基 準 値	目 標 値 (H31 年度)
観光客数 (航路利用者のうち観光を目的とする客)	600 人/年 (H26 年度)	750 人/年

【基本的方向】

3つの島はそれぞれの成り立ち、自然環境は異なりますが、先祖から受け継がれた歴史・文化があり、それが固有の観光資源となっています。また、平成2年から続く、毎年40艇以上のヨットが全国各地から参加する「MISHIMA CUP」ヨットレースや、平成6年から始まった、西アフリカの打楽器ジャンベを使った、ワークショップ、平成8年に、故中村勘三郎による世界初、伝説の島の砂の舞台上演された、三島村歌舞伎「俊寛」等は新たな観光形態を築いてきています。近年は、周年を通じた旅行商品の開発や観光協会の設立、ボランティアガイドの養成などにも取り組んでいます。

2015年9月には、他にない特異な自然環境と歴史・文化的資源の保存と活用が評価され、日本ジオパークに認定され、これを契機に三島村の認知度が高まり、観光客や探究心のある来島者の増加が期待されています。

固有の自然や歴史、文化を学び、体験するニーズが高まるなかで、幼少期の一時期を三島村で過ごしたいとする児童生徒をしておかせ留学制度で受け入れることも期待されます。教え、学ぶ様々な立場の人が島をアイランドキャンパスとして新たな交流の場になることが島の魅力をさらに高めることになると考えます。三島村・三島村教育委員会と大学が提携して教職を目指す学生をむらの公立学校に受入、離島における教育及び生活体験・交流等を通して三島村の教育課題の解決に資する活動を展開してもらい「元気みしま村」の具現化を図るものです。

このように個性ある3つの島への新たな人の流れが生まれつつありますが、これを円滑に推進するには、民宿等の受け皿の整備やしおかせ留学生を受け入れる里親の確保等が必要で、新たな担い手の確保につながると期待されます。

また、タイムリーな情報の受発信とアクセスの向上も重要です。情報インフラについては高速通信網が整備されており、その利活用が課題です。一方アクセスについては、フェリーみしまが2015年10月から月1回の限定ながら枕崎港まで定期運航することになり、その利用促進によるアクセスの向上が見込まれます。空路は、2015年4月より鹿

児島空港と硫黄島の区間をセスナ機が週2往復するようになり、海路と空路の相互利用も可能となっています。

【重要業績評価指標（KPI）と具体的な施策・取組内容】

①三島村へ行きやすい環境づくり

《KPI》

	基準値	H31 年度
HP アクセス件数	16 万件（H27 年度）	20 万件（25%増）/年
旅行者コメントサイトの件数	0 件（H27 年度）	50 件/年

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 高速通信網の利活用 光ファイバーによるブロードバンドの利活用 インターネットによる地域再生の推進</p> <p>(イ) フェリーみしまの利用促進 鹿児島～三島～枕崎航路の利用促進 平成31年就航予定の代替船の利活用に向けた取り組み</p> <p>(ウ) 鹿児島空港と硫黄島の区間の空路の活用 定期航路の定着</p> <p>(エ) 広報活動の充実強化 島の魅力の可視化（村民と外部の専門家によるコンテンツ制作） 地元メディアの協力及びネット等の活用（旅行者コメントサイトの開設、月替わりで島の良さを情報発信）</p>
--

②きらりと光る自然・歴史・文化資源を生かした交流促進

《KPI》

	基準値	H31 年度
新規イベント数	0 件（H27 年度）	5 件/年
新規イベント参加者数	0 人（H27 年度）	100 人
宿泊施設数	民宿 12 軒（H27 年度）	民宿 15 軒
電動アシスト付自転車の利用者数	0 人（H27 年度）	700 人/年 20 台導入

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 観光業を必要とする業者の組織化 三島村に観光協会発足、村内 NPO 団体と観光案内所の連携強化、関東・関西・福岡方面への広報及びツアー誘致</p>
--

- (イ) 伝統芸能の観光化（八朔踊り、面踊り等のツアーの実施）
- (ウ) ジャンベスクールの活動(イベント開催、各地区伝統芸能とジャンベとの融合)
 ジャンベフェスティバルの開催増
 ジャンベによる地元をテーマにした曲の作成など
- (エ) 文化財の維持保存と文化財の教育及び観光素材化
 各島の文化財のリストアップ並びに解説
 パンフの作成及び総合学習時間並びに土曜授業での利用
- (オ) 周年を通じての体験型観光の確立
 ワンデイクルーズ、シーカヤックツアー、海の学校、トレッキングツアー、アイランドトレイル 2days' 黒島、漁師体験ツアーの実施（船釣り、ダイビング等）
- (カ) 林業を核とした体験型観光の開発
 竹林オーナー制度を竹島で継続
 竹の子狩ツアー等の開発
- (キ) 集客能力のある宿泊施設の建設
- (ク) 島内移動用の電動アシスト付自転車電動の導入及び移動手段の開発
- (ケ) 軽車両のキャンピングカーの誘致

③島が学びの場となるアイランドキャンパスづくり

《KPI》

	基準値	H31 年度
ジオ・歴史文化ガイド数	7 人 (H27 年度)	15 人
しおかぜ留学生	15 人 (H27 年度)	30 人/年
里親	6 戸 (H27 年度)	12 戸

《具体的な施策・取組内容》

- (ア) ジオパークに関する村民研修会の開催とボランティアガイドの養成
- (イ) ジオパーク関係の研究・活動拠点（地球科学研究所）の整備とネットワーク化
- (ウ) 大学を含む学校教育関係機関と連携した教育プログラムの開発・実施
- (エ) しおかぜ留学生制度の推進と里親の確保
 しおかぜ留学制度拡充のための住宅建設
- (オ) 小中学校教育の充実・強化
 特色ある教育の推進

(2) 基本目標②

地域資源を生かしたしごとをつくり、安定した雇用を創出する

【数値目標】

指 標	基 準 値	目標値 (H31 年度)
就業者数 (第1次産業及び第2次産業)	(H22 年度) 83 人	106 人 23 人増

【基本的方向】

三島村の主要な産業は、畜産を中心とする農業、島周辺の個人操業主体の漁業、公共工事を中心とする建設業が中心となっています。小規模離島のため産業基盤が極めて脆弱で、また、高齢化により廃業する事業者もみられ、農林漁業等の基盤産業の強化と人材の育成・確保が急務となっています。

こうしたなか、椿油関連商品や大名筍、海産物、黒島みかんを使った菓子などの特色ある特産品が生まれており、このような固有の地域資源(自然資源)を生かした小さなビジネスを女性の発想や高齢者の知恵で創出することを推進します。

さらに、黒島でとれたサツマイモを原料に島外で作られる「焼酎みしま」を島内で造ることの検討がはじまっています。また硫黄島では、地元唯一の経済の支えであった硫黄鉱山やオパール硅石(セラミック・ガラスの原料)が消えて経済規模は大きく縮小していましたが、地熱を活用した新たなエネルギー産業の調査研究が始まっており、このような新たな産業の誘致を積極的に進め、魅力ある雇用の場の創出を目指します。

【具体的な施策・取組内容と重要業績評価指標（KPI）】

①農林水作業の強化と人材の育成・確保

《KPI》

	基準値	H31 年度
農林水産業生産額の増	97.6 百万円 (H25 年度)	1 億 5 千万円
専業農家	1 戸 (H27 年度)	3 戸
畜産農家	32 戸 (H26 年度)	37 戸
漁業者（専業）	0 戸 (H27 年度)	1 戸
ブランド事業化のモデル	0 件 (H27 年度)	1 件（累計）

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 畜産農家の経営規模拡大と所得の向上</p> <p>(イ) みしま牛「笹牛」のブランドに向けた試験肥育と商品化</p> <p>(ウ) 畜産農家の高齢化を視野に入れたヘルパー（支援）組織の創設 ヘルパー利用推進及びヘルパーの増加</p> <p>(エ) 女性農業者の育成、新規就農者の確保</p> <p>(オ) 大名筍等のブランディング 島に自生する農産物の換金化（高価格での販売の実現）、栽培拡大、産業としての定着化</p> <p>(カ) 適応作目の研究 大里地区において硬質プラスチックハウスでバンクシア等 9 品種の試験栽培を実施しており、商品化を目指す</p> <p>(キ) 漁場づくりと蓄養による不安定操業環境からの脱却</p> <p>(ク) 水産業振興促進協議会の活動促進による水産業振興</p> <p>(ケ) 水産物処理加工施設の利用促進（竹島）</p> <p>(コ) 農林水産物の民宿等での提供促進</p>

②固有の地域資源を生かした小さなビジネスの創出

《KPI》

	基準値	H31 年度
新たな特産品の開発件数	4 件 (H27 年度)	8 件（累計）

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 特用林産物を使った新たな特産品の開発 三島うどん、牛肉と炒めたレトルト食品の商品化、保湿クリーム等の製造・開発など</p>
--

(イ) 各地区で食べられていた加工品の製品化

地区、漁協等と連携し、加工品の製品化を推進、女性や高齢者が参画し、知恵と新たな技術で事業展開

③次世代につながる新産業の創出

	基準値	H31 年度
製造業誘致件数	0 件 (H27 年度)	1 件 (累計)
新エネルギー産業創出	0 件 (H27 年度)	1 件 (累計)

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 「焼酎みしま」の島内生産

国家戦略特区申請中、サツマイモの増産と製造工場の誘致

(イ) 地熱を活用した新たなエネルギー産業の創出

液体水素燃料の製造、熱エネルギーを利用した産業化

(3) 基本目標③

若い世代の移住・結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】

指 標	基 準 値	目 標 値 (H31 年度)
新規移住者数	-	32 人 (累計) 年間 3 組

【基本的方向】

三島村の出生数は、近年では 0～3 人で推移しており、死亡者数を下回り、自然減が続いています。また、人口動向をみても、男性が女性を上回る状況が続いています。村民アンケートでも、子どもを 1 人より 2 人、2 人より 3 人と欲しがる意向はあるものの、経済的な要因や保育サービスなどの支援体制が不十分との理由で出産に踏み切れないことがうかがえます。

こうしたことから、将来的には年間 2～3 人の出生を実現していくため、若い世代の交流機会の創出や同世代の夫婦の移住促進に取り組むとともに、医療や子育て環境が十分でない島での出産、子育てに関する不安の解消と支援を実施します。

【重要業績評価指標（KPI）と具体的な施策・取組内容】

①若者の交流機会を創出

《KPI》

	基準値	H31 年度
新規定住者数	-	15 人 (累計)
地域おこし協力隊員数	3 人/年 (H27 年度)	5 人/年

《具体的な施策・取組内容》

- (ア) 定住促進事業の推進
- (イ) 地域おこし協力隊員の増強
隊員のアイデアをもとに商品などの企画開発の推進
- (ウ) ジャンベ留学生やワーキングホリデー等の推進
畜産・畑作・水産業の分野に従事

②出産に関する支援の充実

《KPI》

	基準値	H31 年度
出産支援件数	1 件/年 (H27 年度)	5 件/年

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 定期健康診断の支援 (イ) 出産準備支援

③子育て支援の充実

《KPI》

	基準値	H29 年度
保育所数	2 か所 (H27 年度)	3 か所

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 新規定住者の子育てのための環境整備 (イ) 小規模保育所の整備と保育士の確保

(4) 基本目標④

健康で豊に安らげる特色ある地域をつくり、地域と地域を連携する

【数値目標】

指 標	基 準 値	目 標 値 (H31 年度)
「住み続けたい」とする人の割合 (村民アンケート)	35% (H27 年度)	40%

【基本的方向】

村民において、医療や介護・保健サービスをはじめとして、本土では想像できない不自由さの中で生活しています。また、限られた集落のなかで、交流機会も少なく、安定した収入の確保にもむずかしさがうかがわれ、村民アンケートでもいずれは島を離れたいとする向きもあります。

一方村政においても、外海の隔絶された三つの島で形成されているため、3つの島の4地区に、村の出張所をはじめ、学校、診療所、コミュニティーセンター、港湾施設等、それぞれ4箇所を設置し、職員を配置するという特殊な行政経営を強いられています。人口減少が進む中で、ますますその傾向は強まっています。また、地理的に台風の常襲地帯であり、防災対策は常に大きな課題となっています。

住み慣れた地区で村民が健康で豊かに安らげるように、集落機能の維持と安心・安全な暮らしの実現に向けて、村民の知恵と工夫に新たな人材の流入を推進します。

また、ICTの活用により村民一人一人がつながる関係の構築や、人的・物的つながりが長年にわたり構築されている鹿児島市との連携及び新たに航路でつながった枕崎市をはじめとする南薩地域との連携のなかで、豊かさを享受できる環境づくりに取り組みます。

【重要業績評価指標（KPI）と具体的な施策・取組内容】

①集落機能の維持と安心・安全な暮らしの実現

《KPI》

	基準値	H31 年度
集落整備マスタープランによる事業推進	-	4 地区 4 事業（累計）

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 災害に強い住環境の整備 学校や拠点施設を中核とするコンパクトな集落づくりと住宅整備</p> <p>(イ) 福祉住宅等の施設改修を推進</p> <p>(ウ) 僻地診療所に設置している医療機器及び遠隔医療システムの整備並びに電子カルテシステムの導入</p> <p>(エ) 介護や保健サービスの充実</p> <p>(オ) 島内環境の美化 ごみのリサイクル等の徹底により、自然保護意識の醸成及びモデル化 分別回収の簡素化、リサイクルの徹底（破碎、燃料化など）</p>
--

②村民一人一人とつながり、豊かさを享受できる環境づくり

《KPI》

	基準値	H31 年度
村民の満足度	53%（H27 年度）	58%
地域見守りシステム 活用率	60%（H27 年度）	100%

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 社会参加促進、日常生活用具等の給付及び貸与、各種在宅サービス等の推進</p> <p>(イ) 地域見守り体制の整備</p> <p>(ウ) 自給自足の助け合いネットワークの形成</p> <p>(エ) 地域住民の特技等の活用化</p>

③3つの島の連携と鹿児島市、南薩地域との連携

《KPI》

	基準値	H31 年度
島間連携の活動件数	1 件（H27 年度）	20 件（累計）
広域連携件数	0 件（H27 年度）	1 件（累計）
生産販売活動	月 1 回（H27 年度）	週 1 回

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) 3つの島の人的・物的連携の推進</p> <p>(イ) 鹿児島市と連携 冒険ランド硫黄島の活用</p> <p>(ウ) 航路でつながる南薩地域との人・モノ交流促進</p> <p>(エ) 三島村出身者と島の生産者との連携 仮設店舗や移動販売車による特産品販売・情報発信</p>
--

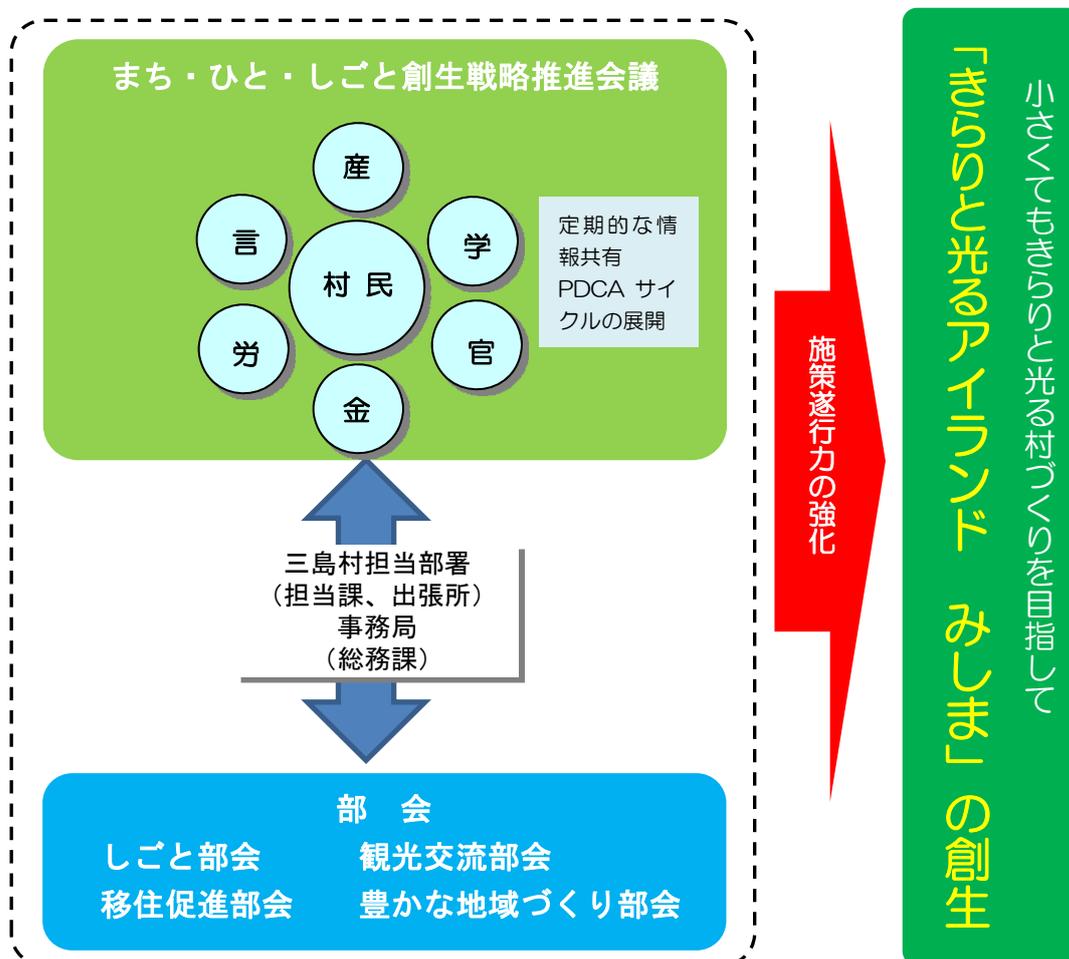
4 計画の推進に向けて

人口規模が極めて小さい三島村において、総合戦略を推進していくためには、まず3つの島、4つの地区の村民と人口減少を克服し、創生を推進するという意識の共有化が最も重要です。そのうえで、三島村役場の主導の下、国や県の支援を受けながら、村民の参加・協力を得ながら、産業界、大学、金融機関、労働団体、メディアの産官学金言の連携のもと、積極的に推進する必要があります。特に、村の職員にあっては、これまで以上に島民の理解や協力を頂く努力とともに、その職責を遂行するために必要な資質向上に努めることが求められます。

また、総合戦略の進捗管理においては、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルの実践によるものとし、年度ごとに事業の選定、実施方法等の検討、事業の予算化、実施に取り組みます。さらに、事業実施後もその効果を測定・検証し、事業の改善、進捗状況等によっては、基本戦略についても、見直しを行います。このため、観光交流部会、しごと部会、定住推進部会及び豊かな地域づくり部会を設けて、PDCA サイクルを確実なものとしします。

なお、財政状況や社会経済環境の変化に柔軟に対応しながら、より一層、村民の声を踏まえた形での総合戦略の見直しを適宜行ってまいります。

【総合戦略推進に向けた体制イメージ図】



5 まち・ひと・しごと 創生戦略推進会議委員名簿

	職	氏名	所属職名	備考
1	会長	大山辰夫	三島村長	自治体
2	副会長	岩切平治	三島村副村長	自治体
3	委員	江口英雄	三島村教育長	自治体
4	委員	佐藤 浩	三島村議長	議会代表
5	委員	前原浩一	鹿児島地域振興局	官（行政）
6	委員	大脇俊朗	鹿児島教育事務所	官（教育関係）
7	委員	升屋正人	鹿児島大学教授	学職経験者（ICT）
8	委員	中園 聡	鹿児島国際大学	学職経験者（歴史）
9	委員	濱田 和久	鹿児島銀行	金融機関
10	委員	平田正知	ハローワーク所長	労働界
11	委員	齋藤潤一	NPO まちづくり GIFT	街づくり
12	委員	槐島栄一	KTS クリエイティブ	言論界（マスコミ）
13	委員	徳田健一郎	ジャンベ代表	地元（ジャンベ）
14	委員	田島教子	Tabi&Coco（株）	産業界（旅行部門）
15	委員	長濱守男	三島村漁業協同組合	地元（水産部門）
16	委員	藤田匡子	地元産品販売	地元（鹿児島在住）
17	委員	日高真弓	地元特産品生産販売	地元（大里）
18	委員	安永 孝	三島村 硫黄島地区長	地元（硫黄島）
19	委員	山崎重則	三島村 竹島地区長	地元（竹島）
20	委員	日高重行	三島村 大里地区長	地元（大里）
21	委員	山田 馨	三島村 片泊地区長	地元（片泊）
22	委員	大町祐二	三島村 観光協会代表	地元（硫黄島）
23	委員	山崎晋作	三島村 NPO 代表	地元（竹島）
24	委員	関村裕太	地域おこし協力隊代表	地元（大里）

敬称略